

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
42	教育課程・教育内容

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
421	教育課程編成・実施の方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	①方針に基づき、順次性のある授業科目を体系的に配置していますか。【※どのように】	B	B
		②専門教育と教養教育の位置づけを明確にし、学士課程として体系的に編成していますか。【※どのように】	B	
422	教育課程編成・実施の方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	③方針に基づき、学部の特徴を反映した教育内容を提供していますか。【※どのように】	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

- ①各学部・研究科の「教育課程編成・実施の方針」に基づき、教授会等においてカリキュラム編成を行い、授業科目を体系的に配置している。具体的には、履修の順次性を確保するための先修制の導入や、セメスター制の学年暦のもと配当年次を設定するなどして体系的に授業科目を配置している。科目の難易度を示すために5学部（文学部、経済学部、経営学部、法学部、政策学部）で「グレイドナンバー制」を導入しているが、授業科目の体系的な編成には活用されておらず、その具体的な効果については未だ検証されていない。
- ②専攻科目と教養教育科目に区分し、それぞれの位置づけを履修要項に示している。各学部の授業科目群は、専攻科目と教養教育科目から編成しており、①に記載したとおり、教授会等において体系的なカリキュラム編成を行っている。教養教育科目については、2015年度のカリキュラム改革を目指し、現在、再編に着手している。
- ③「教育課程編成・実施の方針」に基づいた「到達目標」を各授業科目に設定して、シラバスに明示し、各学部の教育課程に相応しい教育内容を提供している。全学部のシラバスに記載する項目については、教務会議で審議・決定している。

[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

(評価結果)

- ・教養教育センターの設置や国際文化学部の移転、農学部の新設にともない、全学的な「グレイドナンバー制」の採用やグレイドの基準の明確化について検討していただきたい。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・科目の難易度を示すグレイドナンバー制を一部の学部で採用しているが、学部間で基準が異なっており、統一する方向で検討を行う。また、グレイドナンバーに留まらず、科目履修上の順次性を確保するナンバリングとしても活用できないか検討を行う。今後、教務会議等を通じて、まずグレイドナンバー制の有効性について全学的に確認した後、今後のグレイドナンバー制のあり方やナンバリング制について全学的に採用する必要性の有無について確認する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
—	—

II. 評価結果

総評
現状説明をみるかぎり、導入している制度・手法と、順次性や系統的履修といった教育効果の考え方がリンクしていないように思われる。導入している「グレイドナンバー制」と「配当年次」（配当セメスター含む）の具体的な基準（科目配置を決定する指標）等について、DP、CP の内容との整合を示しながら、明確にする必要がある。特にグレイドナンバー制は、認証評価では長所としてあげられているが、導入は全学的に見れば、京都学舎の教養教育と学部専攻科目のみに留まっている。教養教育科目について、2015 年度のカリキュラム改革を目指し、現在、再編に着手しているようだが、その再編に際してもこの点は十分留意されなければならない。昨年度改善計画・実行 PLAN が提出された検討スケジュールに従い推進されたい。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
導入している制度・手法と、順次性や系統的履修といった教育効果の考え方がリンクしていないように思われる。導入している「グレイドナンバー制」と「配当年次」（配当セメスター含む）の具体的な基準（科目配置を決定する指標）等について、DP、CP の内容との整合を示しながら、明確にする必要がある。【努力課題】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

III. 大学基準協会からの助言について

助言内容
【認証評価結果 長所】
1) 文学部、経済学部、経営学部、法学部および政策学部において、学生が学修計画を立てる際の参考となるよう、科目のレベルを簡明に示す「グレイドナンバー制」を採用し、これに則して授業科目を体系的に開設していることは評価できる。
2) 法学研究科および政策学研究科による研究科横断型プログラム「NPO・地方行政研究コース」では、「地域リーダーシップ研究」「先進的地域政策研究」など地方自治体やNPOから入学してくる現職職業人と学部卒の学生がともに教育と研究に参加できるような授業科目が設置されており、そのシナジー効果をねらった教育が試みられていることは評価できる。

IV. 全学的課題事項

2013 年度	■評価項目 No.421 教養教育センターの設置や国際文化学部の移転、農学部の新設にともない、全学的な「グレイドナンバー制」の採用やグレイドの基準の明確化について検討していただきたい。【努力課題】
---------	---